

株式会社アトラス ヒューマネージ様



Web適性検査のシステム増強を図りLinuxベースのHAクラスタ・ソリューション導入 サイオステクノロジーの高い技術力と迅速な対応に大きな信頼感

株式会社アトラス ヒューマネージは、新卒および中途採用時に、企業が応募者に対して実施する適性検査の開発・販売や、EAP(= Employee Assistance Program: 従業員支援プログラムサービス)などを約900社の企業へ提供している。これまでの適性検査は紙ベースのものが主流だったが、インターネットやブロードバンドの普及などによってWeb上で実施できる適性検査へのニーズが高まり、同社では2002年からこれに対応した。その後2004年にシステムの増強を図ったが、このときに採用されたのが、テンアート二の提供するLinuxベースのHA(= High Availability: 高可用性)クラスタ・ソリューションだ。同社 技術グループ マネジャーの門前宏紀氏に、サイオステクノロジーのソリューションを採用した背景、サイオステクノロジーの果たした役割、今後の展望などについてお話を伺った。

会社情報

導入目的

適性検査サービスのシステムの増強

効果

システムの信頼性の向上
導入コスト、運用コストの削減



会社概要

社 名: 株式会社アトラス ヒューマネージ
創 業: 2004年12月1日
本 社: 東京都江東区富岡1-13-6
アトラスビル6F

資 本 金: 5000万円
従業員数: 22人(2006年4月1日現在)

<http://www.humange.co.jp/>

システム構成

[O S]
Red Hat Enterprise Linux v3
[D B]
MySQL v4.1
[ハードウェア]
NL Server RX-1080 AnexTEK AS2800
(SAN接続共有ストレージ)
[クラスタ]
LifeKeeper for Linux v4.6

アクセス数の増加に対応するため LinuxベースのHAクラスタ・ソリューションを導入

冒頭でも触れたように、アトラス ヒューマネージでは、サイオステクノロジーのソリューションを採用する以前に、Web上での適性検査サービスを提供し始めた。当初のシステム構成は、Webサーバーが2台 WindowsベースのDBサーバーが1 台で、DBとしてオープンソース・ソフトウェアのMySQLを採用した。まずは“ スモールスタート ”を目指し、コストを抑えようと考えたのだ。

その後、景気の回復基調を受けて企業の採用活動が活発になり、システムへのアクセス数も増え始め、システムに求められる信頼性もどんどん高まってきた。当時の状況を、門前氏は次のように振り返る。

「1日あたりのアクセス数が増え始めているときに、もし当社のサーバーがダウンしてしまえば、応募者の方がテストを受けることができなくなってしまいます。そうなれば企業側としても、せっかくの採用機会を逃してしまうことになりかねない。お客様からは、とにかく信頼性の高いシステムを作ってほしいという要望が非常に多かったのです」

こうした背景を受けて、同社では2004年12月に、サイオステクノロジーの提供するLinuxベースのHAクラスタ・ソリューション「 LifeKeeper 」を導入した。現在では、Web適性検査サービスは、大手企業を中心に約100社に提供している。

“ Linuxのリーディング・カンパニー ” であるサイオステクノロジーを選択

ここで簡単にLifeKeeperの説明をしておこう。まずHAクラスタとは、サーバーを冗長化することで、システムの停止時間を最小限に抑え、システムの可用性を高めるための手法である。LifeKeeperはこれをソフトウェア・ベースで実現するものだ。

同社では、DBサーバーを2台にしてLifeKeeperを導入し、DBの冗長化を図った。またこのときにOSもRed Hat Enterprise Linux ES v3に変更した。導入期間は約1ヵ月だったという。

アトラス ヒューマネージのITインフラの開発・運用を担当する門前氏は、LifeKeeper採用の理由を次のように語る。

「システムの安定稼働のために、まずMySQLの冗長構成を図らなければならないという課題があり、さらに今後の拡張を視野に入れたときに、OSがWindowsのままではライセンス料が足かせになるのでLinuxにしたいと考えていました。高可用性があり、さらにLinuxベースのもの、ということで、必然的にLifeKeeperに行き着いたのです」

門前氏は、日頃からLinuxに関心を持って、雑誌やWebサイトなどから情報収集をしている中で常にサイオステクノロジーの名前を目にしており、「Linuxといえば、サイオステクノロジー」という認識があった」という。

“国内SIer”としても
サイオステクノロジーに大きな信頼感

またSIerを選定するにあたって、過去に取引のあった外資系ハードウェア・メーカーの対応を反面教師として、門前氏は国内のSIerを考えていた。

これまで関わりのあった外資系メーカーは、障害発生時には単にコンピュータ部品を交換すればいいというスタンスで、障害の特定までには踏み込んでこなかった。その対応に、SIサービスというよりもハードウェアのサポート自体に問題を感じるところがあった。なぜなら、この対応では今後、ユーザー企業としてどのような対策をとればいいのか分からないからだ。

そのため、門前氏は「外資系のソリューションではなく、逆にハードウェアも含めて、国内のシステム・インテグレータに依頼したいと考えた」のだ。Linux分野でのアドバンテージ、そして国内SIerとしての期待がサイオステクノロジーにはあり、HAクラスタソリューションのみならず、ハードウェア、Linux OSの導入を含めたSIサービス全体を依頼したのである。実際にサイオステクノロジーを評価する点と

して、門前氏は「技術力の高さと迅速な対応」を挙げ、次のように続ける。

「当然、当社には事業目標があり、私たちはそれを達成するためにITをどう活用すればいいかを考えています。言い方を変えれば、技術の深い部分まで全てを把握し、理解することは難しい。サイオステクノロジーさんは、こうした深い技術的な疑問に対して、持ち帰りではなく、営業担当の方がその場で答えてくれました。窓口となる営業担当の方の技術的知識レベルが高いため、対応のスピードが非常に速いのです」さらにアトラス ヒューマネージでは、LifeKeeper導入後の2005年 月に、DBのバックアップを行なうシステムもサイオステクノロジーに依頼して構築したが、門前氏によれば、このときにサイオステクノロジーは、シェルを利用したバックアップ方法を提案することで、商用アプリケーションを使用しない低コストでのシステム構築を約1ヵ月で完成させたという。

「ここでもサイオステクノロジーさんの高い技術力と対応力が、我々の大きな助けとなりました」

的確な障害の切り分けも
大きな信頼につながっている

また、システム完成後の運用フェーズにおいて、syslogにて外付けSCSI-HDDがマウントされていないといったエラーメッセージが出力されることがあるという。実際にはマウントされているのだが、同社では、予防的にLifeKeeperにて冗長化したデータベース・システムをスタンバイ側に切替えた。この現象に関してサイオステクノロジーに相談したところ、「Linux OSのSCSIドライバに問題がある」という回答が得られた。

門前氏は、「OSのドライバの問題なので、こうした現象を二度と発生しないように



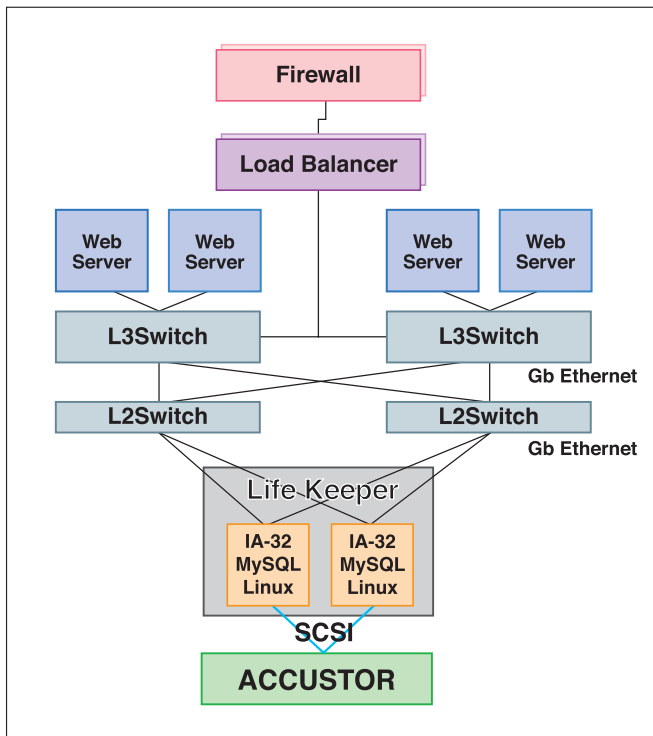
株式会社アトラスヒューマネージ
技術グループ マネージャー
門前 宏紀氏

することはできませんが、原因が特定できたことで、ユーザーとして、今後どのような対応をとればいいのかということは明確になります」と原因の切り分けができたメリットを語る。

また門前氏は、アプライアンス製品の場合、「障害が発生したときにメーカーに問い合わせても2ヵ月くらい待たされて、結局答えが返ってこないということがよくある」と語り、こうした経験からも、サイオステクノロジーの対応力の高さを評価する。

今後アトラス ヒューマネージでは、日本以外の市場でも、適性検査サービスを提供していく予定だ。韓国では既に新卒採用向けのサービスを始めており、現在、中国の新卒採用向けサービスの検討も行なっている。そして、このときに課題となるのが、言語の問題だ。各国の文字コード体系を使用するのか、あるいはISOで標準化されたユニコードを使うのか、を決める必要がある。

こうしたシステムを作っていく上でも、稲垣氏は「HAだけでなく、いろいろな実績を持っているサイオステクノロジーさんに相談したい」と今後のさらなるパートナーシップに期待を寄せている。



▲アトラスのWeb適性検査のシステム概要

2006年11月6日、テンアートニから社名を変更しました。
すべての商品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。記載されている内容は全て著作権で保護されています。